



# 第二中学校だより

令和6年3月号

↓二中ホームページ↓



「明るい挨拶 光る汗 きれいな学校 きれいな心」

## 令和5年度最終月に際して

校長 小関 直

早いもので、令和5年度も11/12か月が過ぎました。個人的には、5年ぶりに中学校勤務となり、以前との比較で中学校教育の在り方を考える日々だったと思います。

### 授業の在り方の変化

比較して一番変わったのは、授業の在り方です。主体的、対話的、個別最適、といった言葉が、公教育のキーワードとなって数年が経ち、ようやく浸透してきた感があります。以前は“教師主導による一斉指導”でした。黒板を背に、教科書、チョーク片手にしゃべりまくる授業（通称「チョーク&トーク」）、成績は、定期テストによる輪切りを中心に評価していました。いまだ定期テストは、重要な評価アイテムですが、入試制度の改革もあり、評価は「輪切り」から「継続」にシフトしています。ポートフォリオと呼ばれるものです。日常の学習成果をその都度評価し、蓄積していきます。本校で中間テストがないのはそのためです。いずれは、学校から定期テストがなくなるともいわれます。

### 関係性、距離感の変化

次に変わったのは、生徒と教員の関係性です。距離感と言った方がよいかもしれません。厳しく優しい先生は、今も昔も変わらず信頼されています。他方、厳しきや優しきベクトルがその生徒の感性にフィットしないだけで、敬遠される傾向も見受けられます。ちょっとした注意が「厳しすぎる」、ちょっとした励まし「否定された」と感じてしまうこともあるようです。それを「先生ガチャ」と揶揄するのはいかがなものか…。とはいえ、時代とともに教員も指導観を変化させなくてはならないと感じます。生徒には、小さな社会である学校で多様な経験を積み、人間関係のバリエーションだけは増やしてほしいと思います。社会に出た時のつまずき回避策を習得する機会でもあります。

### 「多様な育ち」を前提とした取組

他にも様々な変化を感じましたが、次年度早急に対応しなくてはならないのは、「多様な育ち」を前提とした学校システムの再構築です。繰り返しになりますが、従来から行われている集団を対象とした一斉指導に適應できない生徒が増えており、様々なひずみが生じていると感じます。社会環境の変化とともに子供の育ちが多様化しているにもかかわらず、依然として「集団」、「一斉」を前提とした学校システムで公教育が展開されていることにその一端があるのではないかと思います。かつて、学校は毎日必ず行くところ、というのが一般的な認識でしたが、育ちの多様化が進む現代にあっては、唯一の選択肢ではなくなりつつあります。そこで、これまでの教育を継続しつつ、生徒個々の特性

に着目し、学校システムを再構築しようと考えました。

### 登校についてのアンケート結果

登校に対する不安定要素を把握するために、各学年2学級を対象に、アンケートを実施しました。「どんな時に学校を休みたくなりますか？」という質問に40項目で答えてもらいました。回答を統計的な手法（因子分析）で調べたところ、次の5つの要因に整理されました。

- ①心身の不調
- ②一方的な教員・友達関係への不満
- ③コミュニケーションへの不安
- ④一方的な親子関係への不満
- ⑤学習に対する不安

大きく分けて「人に対する不満」「人と接することへの不安」が、学校を休みたくなる大きな要因であることが改めて明らかとなりました。

### 「チームUp担任制」の導入

様々な不満や不安に寄り添うためには、多様な相談のチャンネルが必要になります。相談のチャンネルを増やすために「チームUp担任制」を導入する予定です。複数クラスを1つのチームとし、複数人が協働して担任する仕組みです。担任を1人に固定せず、複数の教員が順番で担任をします。ただし、制度導入には、十分な教員の確保が必要ですので、新年度になり、正式なスタート切れましたら改めてお知らせします。

### 「校内教育支援センター」の設置

不安感を抱える生徒の居場所として、現在は、さわやか相談室への登校が選択できるようになっています。しかし、相談と学習の両方の機能が付加されており、利用者の増加とともに、安心感を抱けない状況も見受けられます。そこで、新たに自習室「スマートスタディールーム」（通称スマスタ）に校内教育支援センターの機能を付加し、学習を行う場所として確保することにしました。学びの保証として教員による質問教室の他、大学の協力を得て、大学生による支援も行う予定です。設置にあたっては、教育委員会、大学との協議が必要ですので、こちらも新年度になりましたら改めてお知らせします。

まもなく、卒業式、修了式を迎えます。

変化の多い時代、学校として変化する需要に十分お応えすることができたか、いささか自信のないところではありますが、それぞれの最終登校日まで、教育活動を展開してまいります。引き続きのご協力と見守りをお願いします。一年間大変お世話になりました。

令和6年度、新生第二中学校にもご期待ください。